

マスコミ各位

令和元年5月8日（水）

沖縄県保健医療部地域保健課 結核感染症班

担当：久高、岡野

電話：098-866-2215

麻しん(はしか)患者の県内での行動について

1 報道関係者の方へ

このたび、観光客が来沖中に麻しんの症状が出現し、離沖後に麻しんと診断されたとの報告が他県よりありました。

現在までに判明している接触者（当該患者と接触または同一空間を共有した方）については、管轄保健所が個別に健康観察を行い、感染拡大防止に努めているところです。

しかし、患者は感染可能期間に [3 患者の症状と行動歴] で示した施設を利用しており、そこで患者と接触した方が21日以内（5月18日まで）に麻しんを発症するおそれがあります。また、大型連休中は多くの観光客が来沖し、県内は麻しんや風しんなどに感染するリスクが高かったと思われますので、連休明けの約3週間（21日間；5月27日頃まで）は感染症の発症に注意が必要です。

体調が悪い方は、不要な外出を避け、麻しんはマスク着用で感染を予防できませんが、外出の際はマスクを着用してください。発熱や発疹等から麻しんや風しんが疑われる場合、事前に医療機関に連絡の上、受診してください。また受診の際はマスクを着用し、公共交通機関等の利用を避けてください。

マスコミの皆様も感染拡大防止対策の周知について、改めてご協力いただきますようお願いいたします。

2 患者の情報

県外在住、0歳、男児。平成31年4月27日より発症。

3 患者の症状と行動歴

日付	経過
4月25日(木)	・羽田空港から那覇空港へ移動 ・名護市内 Aホテルにて宿泊
4月26日(金)	・沖縄美ら海水族館に滞在 (感染が起こりうる時間帯 ^{※1} :午前11時30分から午後4時頃まで) ・Aホテルにて宿泊
4月27日(土)	・発熱(39.5℃)、咳、鼻汁出現 ・那覇空港に滞在 (感染が起こりうる時間帯 ^{※1} :午前10時から午後2時頃まで) ・那覇空港から羽田空港へ移動
4月29日(月)	・発疹出現 ・検査診断の結果、麻しん遺伝子陽性 ・麻しん(検査診断例)の届出となる

※1 麻しんウイルスの空気中での生存期間は2時間以下とされていますので、患者の施設滞在時間にウイルス生存時間の2時間を加味した時間帯です。この時間帯以外に施設を利用されても、当該患者を原因とする麻しんウイルスに感染することはありません。

※2 「沖縄美ら海水族館」様におかれましては、感染拡大防止のために施設名の公表にご協力いただきました。施設の運営に支障がないよう、報道および取材活動等について御配慮いただきますようお願いいたします。

4 県民の皆様へのお願い

麻しんは、感染力が非常に強く、小児が感染すると肺炎、中耳炎、脳炎などの合併症を起こすことがある感染症です。

上記施設で患者と接触した可能性のある方で、5月18日までに発熱、発疹等の症状が現れた場合は不要な外出を避け、麻しんはマスク着用で感染を予防できませんが、外出の際はマスクを着用してください。また受診の際は、事前に医療機関に連絡の上、公共交通機関等の利用を避けてください。

現在、県外では麻しんや風しんが流行している地域もあります。大型連休中に県外に旅行された方や、不特定多数の方が利用する施設に滞在された方につきましても、3週間程度は発熱、発疹等の症状が現れないかご注意ください。

5 麻しん（はしか）について

原因：麻しんウイルス

潜伏期間：通常10～12日（最長21日）

主な症状：感染すると約10日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が出現。

2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現。

肺炎、中耳炎を合併しやすく、また、10万人に1人程度と頻度は高くないものの、麻しんウイルスに感染後、特に学童期に亜急性硬化性全脳炎（SSPE）と呼ばれる中枢神経疾患を発症することがある。

感染経路：空気感染（麻しんウイルスの空気中での生存期間は2時間以下）

感染症法：五類感染症

予防：予防接種が有効

麻しんに感染しないためには、予防接種が重要です。

麻しんの定期予防接種（第1期：1歳、第2期：小学校入学前）がまだの方は、早めに予防接種（MRワクチン）を受けましょう。

また、定期予防接種以降でも、以下に該当しない方はMRワクチンを受けましょう。

- 母子手帳などで麻しんワクチンを2回以上受けた記録がある
- 過去に麻しんに罹ったことが確実である
(検査で確認されたことがある)